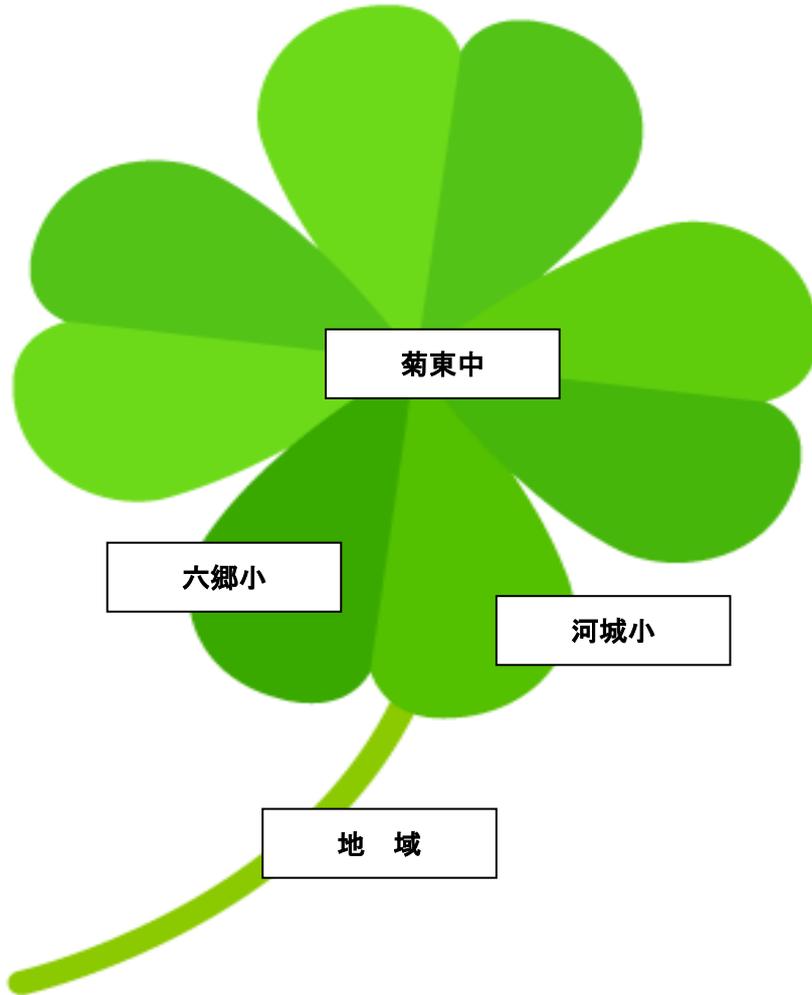


菊東学舎 学びの庭

15才の出口

もっと課題を解決したいと考え、自ら行動する菊東学舎の子



学力を向上させ、幸せを運ぶ四葉のクローバー

人生 100 年時代を迎えた。グローバル化が進む社会にあって、この長い人生を「自分らしく」「幸せに」生きることが重要な価値であることは明白である。

そのためには、自己の課題をはっきりさせ、それをよりよく解決したいと自ら求めて行動する力の土台を小中学校時代に培っていくことが必要不可欠である。

目標設定の理由

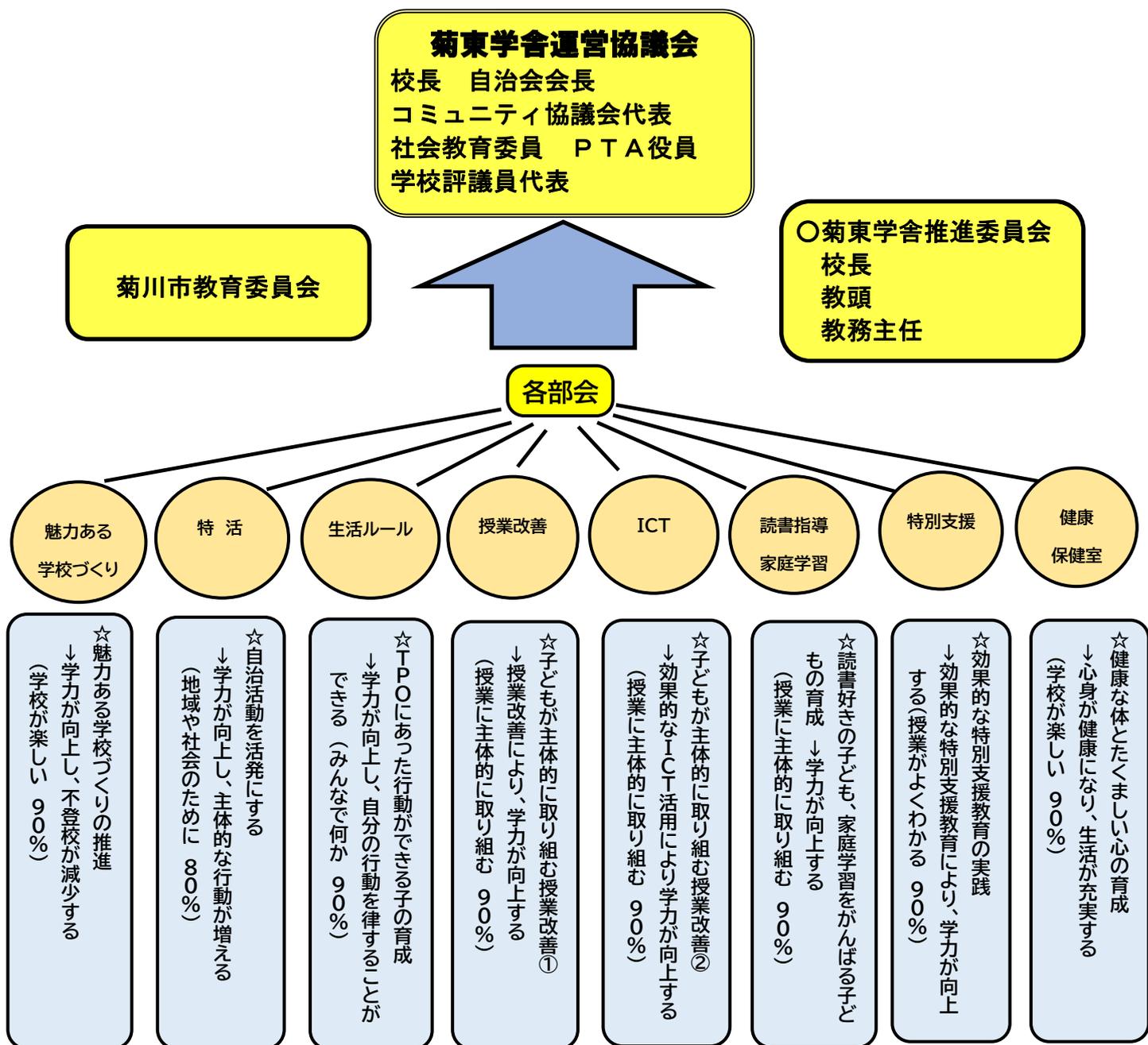
菊東学舎の子どもの実態として、牧歌的な地域の特徴でもある素直さが強くみられる反面、自分で判断して行動する力や困難を乗り越える力、また学習の定着において課題がある。

これらを踏まえ、15才の出口としての目指す子ども像を『もっと課題を考え、自分から行動する子』とし、主体性を育むことに焦点を当てる。ここでいう主体性とは、物事を自分ごととしてとらえ、課題と向き合い、よりよい解決に向かって自分から行動し、他者へ働きかけたり協働したりする姿である。

取組の中核として「学力の向上」を掲げる。子どもたち一人ひとりの夢の実現に近づくためには、学力の向上が必要不可欠である。また、取組のPDCAが循環しやすいというメリットもある。さらに、自己肯定感の高まりも期待できる。

今後、学校と家庭・地域が目標を共有すること、学舎で共通の取組を推進していくことの2つの方策を実行していくことで、よりよい成果を求めていく。将来的には、自己の未来を切り拓き、地域に誇れる人材になることを願っている。

推進組織



菊東学舎「学びの庭構想」

☆目指す子ども像

もっと課題を解決したいと考え、自ら行動する菊東学舎の子

取組の中核

ア 主体的に学ぼうとする姿勢
イ 話す力、書く力の向上
ウ 成果指標「授業に主体的に取り組んでいる」
90%以上

課題を解決し自ら行動する→主体性の向上
自己肯定感が向上する→不登校が減少

小・中学校のたての接続

中学校区を単位とした小学校、中学校が保幼こを含め、連携を強化し、一貫性のある教育を行う。



菊東学舎教職員全体会

菊東学舎ではこんなことを
重点に取り組めます。



学舎運営協議会

こんな子どもたちに育てほしい、
こんな取組をしていきたい。



菊東学舎教職員グループ協議

子どもたちに こんな力を付けたい、
こんなところを伸ばしたい。



高校生とあいさつ運動(菊東中)



高校生とあいさつ運動(六郷小)



中学生とあいさつ運動(河城小)

菊川市内 小中高校生あいさつプロジェクト 2023

小中高校生が一緒になってあいさつ運動を進めた。菊東学舎では、各小中学校の門付近であいさつを盛り上げた。



小学生と中学生の交流



小学生と中学生の交流



小学生と中学生の英語リモート授業

中学校入学説明会の時、中学生が小学生に中学校の勉強を教えたり、
小学生が中学生に質問したりして交流した。

小学校6年生と中学校2年生が英語の
リモート交流学習をした。

学校と地域社会のよこの連携

学校・家庭及び地域住民が連携協力を推進することで、子どもたちのよりよい成長を目指し、子どもたちを地域の宝として育てる。



棚田の学習



生き物さがし



田植え体験



職業体験



お茶の手摘み体験



野菜の収穫



地域探訪



警察署見学



消防署見学



茶工場の見学



水生生物を学ぶ



思春期講座



お茶の手もみ体験



福祉教育



しめ縄飾りづくり



ブックトーク

地域の人から学ぶ

地域の人に支えられて



スクールガード



図書ボランティア



園芸ボランティア



放課後学習室



読み聞かせ



理科支援ボランティア



学習支援ボランティア



防災講座



放課後子ども教室



ふるさと未来塾



合唱祭ボランティア



菊川元気プロジェクト



赤い羽根共同募金



中庭コンサート

地域に発信する



まごころ宅急便



大榎祭

○ 成果

- ・菊東学舎教職員が一堂に会し、菊東学舎の子どもたちの現状を踏まえての課題や取組を話し合うことができた。
- ・コロナ禍だからできる取組(小中オンライン交流、ICTを活用した学習等)を進めることができた。
- ・コロナ禍であったが、できることをできるところから粛々と進めることができた。
- ・菊川市あいさつプロジェクト2023運動では、小学校・中学校が連携してあいさつを盛り上げることができた。
- ・学舎運営協議会では、委員の方から地域の子どもたちの様子、地域の声を聴くことができた。
- ・ふるさと未来塾に参加する地元企業が増えた。

● 課題

- ・コロナの影響で計画した行事やイベント等を中止や延期せざるを得なかった。
- ・小学校と小学校の連携や小学校と中学校の連携を計画し、学舎で子どもを育てるという意識をさらに強める。
- ・学舎の取組を広く地域住民に知っていただくための情報発信の工夫をする。
- ・これまで以上に、地域と学校がより連携した活動を展開していく。

☆ 今後の取組等

- ・小学校と中学校の連携で、中学校において新1年生向けの動画を作成し、小学校に送る。
- ・Zoomでの学習交流や小学校と中学校の交流学习をすることで、小中連携した活動を増やす。
- ・小学校区内だけでなく、学舎内の他のエリアのことを知る活動を計画する。
- ・いろいろな職種のプロの方から学ぶ機会をもち将来の夢を持たせる取組をする。
- ・登下校中の事故防止のための対策を講じる。
- ・地域の方から「学校に〇〇の協力をしたい」と言ってもらえるシステムを構築する。放課後に地区センター等で勉強を見てもらえる組織づくりをする。
- ・地域を知る地域探訪や学習の充実のためのゲストティーチャーなどを積極的に取り入れる。
- ・コミュニティ・スクールを共通理解して、地域と学校がより連携を強める。
- ・子どもの学習を広げたり深めたりするために、地域の企業とコラボをさらに広める。